

すみかを奪われた象たち

(原文)

皆川 風花 (15 歳)

埼玉県

大妻嵐山高等学校

私は、近年、生物と人間との共存が難しくなっていることを実感します。

昨年、家族でマレーシアへ行きました。そこで、クアラ・ガンダー象保護地区という場所を訪れました。クアラ・ガンダー保護地区では、行き場をなくした象を安全な森に戻す活動や保護などを行っています。また、入園者に対して象の餌やりやふれあい、ビデオ鑑賞やショーなどを行っています。私はそこで見たビデオに衝撃を受けました。人々の森林開発などにより、象のすみかや食べ物が奪われ、それらを失った象は人々の集落や農園に迷い込み、トラブルが起こってしまうというものです。象は人間よりもはるかに大きな体を持ち、追い払わなくては危険です。そのために仕掛けられた罠などにより、象がけがをしてしまうこともあるそうです。私は、周囲がたくさんの自然で囲まれているにも関わらず、象のすみかがなくなってきたという説明に衝撃を受けました。

森林開発ではたくさんの熱帯雨林が伐採されプランテーション（大規模農園）に取って代わっています。そこでは、パーム油を生産するために多くのアブラヤシが育てられています。パーム油はポテトチップスやカップ麺、チョコレート、さらにはシャンプーや化粧品などありとあらゆるものに使われています。もちろん、これらを多く利用しているのは、日本を含む先進国で暮らしている私たちです。パーム油は自然から作られた資源であり、石油などよりも環境に良いとされていたために、このようにたくさん生産されることになったのです。空港近くにまでもたくさんのアブラヤシが生えていたことを覚えています。

また、マレーシアではアブラヤシを生産するためだけではなく、材木として輸出するためにも多くの熱帯雨林が伐採されています。これらも日本などで多く使われているのです。

マレーシアは、本来、広大で豊かな自然とたくさんの野生生物のすみ国です。しかし、近年、その自然と生物が失われつつあるという事実はとても残念です。

私たちは、便利さや豊かさを求めて生活してきました。私はそれらを否定しようとは思いません。しかし、今の私たちがそれらを求めようとするあまり、犠牲になっている生物がいることを忘れてはなりません。

私たちが、のんきにテレビを見ているときにも、すみかを奪われようとしている生物がいるかもしれない。絶滅の危機に瀕している生物がいるかもしれない。私たちは、快適な生活を享受するために、

地球資源を大量に浪費し、生物を頼り、利用してきました。地球規模で考えたとき、私たちは同じ地球で生きる仲間です。生物多様性を守るためにも、互いに助け合わなくてはなりません。この先の地球の未来のためにも、現状を知ることから始めたいと思います。そして、快適な生活を追及する暮らしから、少し不便な生活へ、いわば「ちょっと快適」な生活へ目を向けてみてはどうだろうかと思います。今を未来につなげる生活、と考えたら「ちょっと不便」から見えてくることもあるかもしれないと思います。